

平成23年度終了プロジェクト研究成果ダイジェスト

【研究代表者名：徳永 保】

研究課題名	高等学校・大学におけるグローバル人材の育成に関する調査研究
実施期間	平成22～23年度
最終的な達成目標	我が国の大学がグローバル化に対応した人材育成を行うために、どのように「国際化」を長期的に推進していくかを検討し、様々な大学評価活動で活用しうる指標を作成する。また、グローバル化の進展を展望した高等学校における取組の可能性について検討する。
研究の方法	<p>〈大学に関する調査研究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の大学の国際化に関する事例研究</li> <li>・グローバル人材の採用及び求める資質についての企業へのインタビュー調査</li> <li>・海外の動向に関する文献調査</li> </ul> <p>〈高等学校に関する調査研究〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校関係者へのインタビュー調査</li> <li>・この主題に関連する先進的事例の調査</li> </ul>
主な事実発見	<p>グローバルに活躍できる人材について、企業が求める人材と大学・大学院教育への期待を明らかにした。調査対象企業のすべてが研究開発を含む海外事業の規模拡大を考えていて、今後は外国人をより積極的に採用したいとする企業も多い。</p> <p>グローバル人材に求める資質・能力として、異文化理解や異文化対応力をあげる企業が多い。英語は必須のスキルとみなされ、留学経験一般というより、目的意識をもった留学への評価が高い。アジアからの留学生について、日本文化への理解、ハンガリー精神、バイタリティを評価する企業が多い。</p> <p>日本人学生に対する評価として、知識やスキルは高いが、受け身の姿勢や行動力のなさが指摘されている。企業からの大学・大学院教育への期待として、論理的思考力や基礎的な学力、一般教養、異質なグループと接する経験などがあげられた。</p> <p>グローバルに活躍できる人材の育成を目標とする大学において有用な指標について、「国内外に開かれた大学システムに関する指標」（上記を目標とする大学が満たすべき必要最小限の事項）と、「大学におけるグローバル人材育成に関する指標」（実施状況の程度を評価することを想定した事項）に概念を整理し、前者が六項目、後者が三項目の指標群を作成した。</p> <p>高等学校については、国際高等学校を対象とした聞き取り調査を行うとともに、スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール事業（平成14～21年度）の検証について報告書をまとめた。</p>
教育政策への貢献	<p>大学の国際化からグローバル人材の育成へと政策目標の転換を提言し、このことが文部科学省の「産学連携によるグローバル人材育成会議」などに参照された。また、「グローバル人材育成推進事業」が24年度の新規事業として予算化された。</p> <p>平野文部科学大臣が24年6月の国家戦略会議に提出した資料「社会の期待に応える教育改革の推進」には、教育改革の七つのポイントの一つとして高校と大学における「英語力・グローバル力の向上」があげられ、文部科学省の「大学改革実行プラン」では「グローバル化に対応した人材育成」が八課題の一つとされた。</p> <p>個別大学においても、この報告書の大学評価指標を意識した取組がなされている。その代表例として、東京大学が25年度から開設する学部横断型の「グローバルリーダー育成プログラム」がある。</p> <p>本調査研究の成果、及び各種の講演・執筆活動の成果をまとめて、『グローバル人材育成のための大学評価指標——大学はグローバル展開企業の要請に応えられるか』（徳永保・靱井圭子著、協同出版、2011年）を刊行した。</p>